

プラント状況確認結果(平成25年10月1日～10月8日)

平成25年 10月 8日
福島県原子力安全対策課

○ 平成25年10月1日～10月8日12時までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所1～4号機のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりです。

⇒ この期間において、不具合等の連絡を1件受けました。(下記特記事項参照)

8月19日に発生した発電所敷地内H4エリアタンクからの汚染水漏えい事象の経過の詳細と現況については、[こちら](#)をご参照ください。

また、7月22日に東京電力から福島第一原子力発電所タービン建屋東側における放射性物質に汚染された地下水が海(発電所港湾内)に拡散(漏えい)していると考えられるとの報告を受けた事象について、県の対応は[こちら](#)をご参照ください。

(1) プラント状況(10月8日午前5時)

| 場所 | 目的 | 監視項目 | 1号機 | 2号機 | 3号機 | 4号機 ^{※2} |
|----------------------------|--------|--|-----------------------|----------------------|----------------------|-------------------|
| 原子炉 ^{※1} (核燃料) | 冷却 | 注水量 (m ³ /h) | 4.4 | 5.2 | 5.5 | — |
| | | 圧力容器 下部温度(°C) | 30.8 | 41.3 | 40.8 | — |
| | 未臨界確認 | キセノン135濃度 ^{※3} (Bq/cm ³)(A系) | 1.62×10 ⁻³ | 検出限界未満 | 検出限界未満 | — |
| 圧力容器 | 水素爆発防止 | 窒素充填 | 充填中 | 充填中 | 充填中 | — |
| 格納容器 | | 水素濃度 (A系)(体積%) | 0.03 | 0.05 | 0.10 | — |
| 使用済燃料 プール | 冷却 | 水温(°C) | 25.5 | 25.3 | 24.3 | 29 |

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧下さい。

※2 4号機は原子炉に燃料が入っていないため空欄。

※3 保安規定に定める制限値は、1 Bq/cm³以下である。

(2) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(10月8日午前10時)

最小 2.6(MP-1)～最大 5.5(MP-3) マイクロシーベルト/時 ⇒[計測地点の地図](#)

(3) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果(10月7日採取分)

最小 検出限界未満(6号機取水口前)～最大 98(4号機スクリーン(シルトフェンス内側)) Bq/ℓ

(4) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(10月7日採取分)

5,6号機放水口北側に30m: 1.7 Bq/ℓ

1～4号機放水口から南側に1.3km: 検出限界未満 ※検出限界値は約1.4 Bq/ℓ

(5) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果(10月7日採取分)

西門: 検出限界未満 ※検出限界値は約2×10⁻⁷ Bq/cm³

(6) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(10月7日採取分)

最小 検出限界未満(3,4号機) ~ 最大 0.28(2号機) Bq/cm³ ※検出限界値は約0.02 Bq/cm³

【特記事項】

10月2日 20時05分頃、B南エリアタンク上部天板部から汚染水の漏えいが確認された。その後、21時55分頃に堰外への漏えいも確認され、排水路を通じて海へ流出した可能性が高いことが分かった。このため、排水路に土嚢を設置し止水処置を行った。漏えい量は最大で430リットル、漏えいしたタンク水の全β放射能濃度は580,000Bq/Lであった。10月3日14時00分頃に漏えいの停止が確認された。県が海水を採取して行った緊急的なモニタリングにおいて有意な変動はなかった。
※詳細分析結果等の県の対応は[こちら](#)をご参照ください。

【参考事項】

10月1日 7時53分頃に3号機原子炉建屋5階中央部で確認された湯気らしきものは、13時55分頃には確認されなかった。プラント状況及びモニタリングポスト指示値に有意な変動はなかった。また、10月2日7時50分頃に再度湯気らしきものが確認されたが、10月3日7時55分頃には確認されなかった。その後、10月4日7時48分頃に再度確認されたが、11時00分頃には確認されず、10月5日7時55分頃に再度確認されたが、10月8日7時49分頃には確認されなかった。

10月7日 9時47分頃、共通電源設備において警報が発生し、所内共通高圧電源盤の停止が確認された。原子炉注水設備が停止したが、すぐに別系統が自動起動し、原子炉注水設備は復旧した。その他の設備も停止したが予備系統が起動した。11時59分頃、所内共通高圧電源盤が復旧し、順次停止した設備が復旧していったため、停止の影響はなくなった。プラント状況、使用済み燃料プールの冷却及びモニタリングポスト指示値に有意な変動はなかった。原因は作業員による操作ミスであった。

(問い合わせ 024-521-1917)